

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300807		
法人名	株式会社 ニチハイ		
事業所名	グループホーム サロンドグリーン長沼原		
所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼原町161-1		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑が広がり、のどかな環境の中、600坪の敷地に平屋で建てられたサロンドグリーン長沼原は、芝生が敷かれた広い庭と駐車場があり、自然を感じながら生活の出来る施設となっています。たくさんの光が入る大きな窓に面したウッドデッキより庭へ自由に出入りができ、季節の草花や外の空気が気軽に感じられ、訪れた方がわかりやすい造りとなっております。施設内は、全面バリアフリーとなっており、十分な介護スペースを確保して、安全面の配慮がされており、入居者様が安心して楽しく生活が送れるよう、職員は心に寄り添うケアを重点におき、笑顔絶やさず、家庭的でほっと安らげるサービス提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム サロンドグリーン長沼原」は、広い敷地を有しており、施設内はバリアフリーで、十分な介助スペースが確保された施設である。庭やベランダは、自由に出入りする事が可能となっており、散歩・お茶のみ・ひなたぼっこ・布団干し・庭の手入れ等、入居者にとって居心地が良く、心身の活力を引き出すことが出来る場所となっている。「あなたらしさを守ります」、「できることを大切にします」、「いつも笑顔のあるホームを目指します」という施設理念を掲げており、入居者一人ひとりに寄り添う支援の実践に努めている。また、自治会の加入やこども110番の登録、地域の保育園との交流等を行っており、地域との繋がりを大切にしている。その他、千葉市グループホーム連絡会の役員を務めており、市や他事業所との意見や情報交換を通して、相互に協力関係を構築している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届くところに理念を掲げ、理念に基づいた支援が行えるようにしているほか、職員会議で理念をもとに検討を行い、支援に繋げている。	「あなたらしさを守ります」、「できることを大切にします」、「いつも笑顔のあるホームを目指します」という施設理念を掲げており、入居者一人ひとりに寄り添う支援の実践に努めている。理念は施設内に掲示されており、入居者・家族・職員等に周知されている。また、新人研修や会議における支援内容の振り返りを通して、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板より地区の情報を得ている。新型コロナウイルス感染症予防対策として、地域との交流行事は控えている。(こども110番の登録は継続)。 近隣の障害者施設のパン工房よりランチパンを購入し楽しみランチを提供しているほか、保育園児来訪により庭を活用した交流を継続している。飾りものや手紙などで交流の機会を継続している。	自治会の加入やこども110番の登録を通して、地域との繋がりを大切にしている。現在コロナ禍の為、地域との交流はほとんど行われていないが、地域の保育園との交流があり、園児から手紙やプレゼントをいただいている。また、入居者からも手紙や活動で作成した雑巾等をプレゼントしている。その他、運営推進会議を通して、地域の民生委員との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解については、運営推進会議にて研修内容を伝えるほか、相談については、随時受け付け、情報提供を行い丁寧に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策のため、書面開催とし、地域包括センター及び民生員、家族代表へ運営状況を報告。ご意見欄を設け、返信を頂いている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・民生委員・家族等を構成員として、2か月に1回開催されている。会議では、行事などの活動報告・利用状況・研修の実施状況等を報告した上で意見交換を行い、施設の運営やサービスの向上に繋げている。現在コロナ禍の為、会議は書面開催となっており、構成員に資料を届け、意見等を確認する形で機能を果たしている。	

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供にあたり、様々な内容について、所管担当者へ随時、報告及び相談を行い協力を得ている。また、管理者が千葉市GH連絡会の役員をしているため、市との意見交換を行う等交流の機会がある。	日頃から市に対して、業務運営における相談や報告等を行う等、連携を図っている。また、千葉市グループホーム連絡会の役員を務めており、市や他事業所との意見や情報交換を通して、相互に協力関係を構築している。その他、市やグループホーム連絡会主催のリモート研修に参加している。研修内容については、資料の配布や伝達研修により、全職員で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置、マニュアルに添い振り返りほか、理解を深めるよう定期的に研修を行い、職員一人ひとりが拘束をしないケアに努めている。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施し、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、支援の振り返りや支援方法の検討を行い、身体拘束の無い支援の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置。日々の支援が虐待につながる可能性はないか、支援の振り返りや気づきなど報告が出来る体制を整え、定期的に研修を行い理解を深めるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談の際、必要に応じて制度の説明を行っている。 家族へ制度に関して文章を送り、周知した事もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学及び契約時に家族の疑問を確認。 出来る事と出来ない事を含めて丁寧に説明を行い後々のクレームにならないようにしている 料金改定については、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より意見や相談がしやすい環境作りに努めている。意見や要望を受けた際は、必要に応じて代表者へ相談を行い、職員会議で周知しサービスの質向上につなげている。	面会や電話連絡、運営推進会議を通して、家族から意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望については、会議・申し送り・連絡ノートの活用により周知・検討し、適切な支援に繋げている。また、必要に応じて代表者に相談している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議ほか、常に職員の意見を聞く機会を設け、必要に応じて主任会議を行い、運営に反映させている。	定期的に職員会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けている。また、主任会議が開催されており、挙げた意見や提案を事業運営に反映することにより、働き易い職場づくりに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は、常に運営状況の把握が出来るよう話し合いを行っている。改善事項などその都度職員へ周知し、職場の環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員全体に企業理念を周知する機会を定期的に設けている。 また、施設全体に求められる一定の基礎知識については、職員会議で研修をするほか、個々の力量にあわせた指導については、その都度フロアリーダー及び管理者が行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が千葉県グループホーム連絡会の役員をしているため、日頃より他グループホームとの交流をする場面が多く、サービス向上のため随時情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴及び現状を確認。入居前に面談を行い、本人に必要なニーズ及び安心して過ごせる環境作りに努めるほか、生活の中でも要望を確認し信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学及び入居前相談時に、家族が困っている事や望んでいる事を確認し、家族の要望に応えられるよう話し合いを行う。家族の要望に応えられない事については、丁寧に説明を行い理解を得られるように努めている。		

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を確認し、必要なサービスの見極めを行い、他のサービス利用含めた選択肢を提供し、総合的な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が希望する暮らしを継続出来るように、本人の出来る事が活かせる役割を日々のなかで取り入れ、お互いに感謝の気持ちを伝えられるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆が途切れないよう、両者の立場を理解したうえで支援をしている。日頃の様子を家族へ報告。支援内容が変更される場合及び経過は、都度家族へ相談を行い共に本人を支える体制を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会については、新型コロナ感染対策のもと、制限付き面会を継続しているほか、電話の取次ぎを行っている。また、家族含めた友人とのやり取りは、手紙や年賀状を受け取り、必要に応じて返事を書くなど対応をしている。	希望に応じて、友人・知人・家族等の来訪を随時受け付けていると共に、手紙や電話のやり取りも自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。現在コロナ禍の為、家族との外出や外泊は見合わせているが、面会については時間や場所を制限して実施しており、相互の関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を把握して、入居者様同士の相性などに留意して席替え含め、良好な関係性が継続できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族より、経過報告や相談があり、その都度丁寧に対応している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族の意向を確認したうえで、生活の中から本人の気持ちを汲み取り、ケアプランに繋げている。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に繋げている。入所後も情報把握に努めており、会議等で検討や確認を行い、現状に即した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、ケアマネ、他サービス事業所から情報を聞き取ったうえで、日々の生活から、本人らしさを確認し、必要に応じて家族へ報告相談しながら支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、職員会議にて周知。残存能力を活かして、出来る事が今までと変わらず続けられるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題と意向、家族の意向、主治医からの身体的所見を含め職員会議で検討後、ケアプランを作成し、申し送り含めて支援をしている。	本人・家族の意向やニーズを把握した上で、医師の意見を確認し、職員会議で検討の上、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認・評価を行うと共に、日々の様子・意向・課題をまとめた個別記録を作成している。作成した介護計画や個別記録は会議や回覧等で周知されており、全職員で統一したケアの実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど、日誌及びケース記録に記載して情報を共有するほか、職員会議で検討を行いケアプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズはその都度確認。 本人と家族のニーズを理解したうえで、必要と思われるサービスを家族に情報提供のうえ相談。 (ボランティア、訪問リハビリの受け入れあり、現在は新型コロナ感染対策のため受け入れをしていない)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染対策防止のため、地域資源の活用は行っていない。 現在のところ、家族からの要望もなし。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医へ生活状況含めて定期受診し医療機関と情報を共有している。本人にとって必要な医療は、家族、医師と話し合いを行ったうえで、専門医の受診を随時対応している。	定期的に内科医・歯科医の往診を実施していると共に、かかりつけ医への受診も行っており、適切な医療支援を行っている。家族による受診時は、日々の記録や特記事項を記した書類を添える等、医師との情報共有に努めている。また、訪問看護による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行われている。その他、歯科医から口腔ケア指導も受けており、入居者の口腔衛生にも力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有し、身体状況の変化を常に相談し指示を仰いでいる。 必要に応じて、往診医へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と情報共有し、入院中の経過は、家族の報告をもと必要に応じて医療機関へ確認。早期退院に向けて医療機関と調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する施設方針を説明。緊急時及び終末期における事前意思確認書にて意向を確認している。本人の状況変化に応じて、その都度、家族が医師へ相談できる体制を整えている。	終末期・重度化に関する施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。必要時に家族・医師・看護師と話し合いを行い、意向に沿った支援に向け体制を整えている。入居者の状態変化に合わせて、家族の意向確認を行い、入居者・家族の安心と納得を得られるよう、対応方法の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の発生時に備えてマニュアルを整備し、周知をしているほか、ドクターコール体制を整えている。応急手当等については、職員会議で研修を行い周知しているが、施設内で実践を通した機会は設けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対応マニュアルは、職員会議を利用し対策の検討を行い整備及び周知している。避難訓練は、消火器を使用した訓練を含め年2回行っている。停電に備えて自家発電機を購入。使用方法を周知したほか、必要な非常食及び備品準備をしている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機・消火器等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防署届け出の下避難訓練を実施している。日中及び夜間想定訓練や、消火訓練、通報訓練等を行っており、状況に応じた対応を身に付けている。また、地域住民とは、災害・水害時における協力体制を構築している。その他、食料品等の備蓄や自家発電機を購入により、災害対策を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にその人らしさを尊重し、プライバシーに配慮した声かけを心掛けている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーと尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援に努め、その人らしい生活の実現に繋げている。	

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決めて生活を送る大切さを理解したうえで状況に応じた声かけを行っている。言葉以外の表情やしぐさから意向を確認し支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねの1日の流れはあるが、自分のペースで概ね自由に生活が送れるよう、個別性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、毎日の生活のなかで気を付けて支援しているほか、定期的に散髪を利用している。化粧水や髭剃りを行う方は、置き鏡を用意し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は担当者が主体となり行うが、盛り付けや片付けは入居者と一緒に行う場面もある。お弁当やパン工房を活用するほか、ウッドデッキにてコーヒータイムを取り入れ支援している。	食事の準備から片付けまで、入居者の希望と能力を活かしながら職員と共同で行っている。食材や献立は業者を活用しているが、利用者の希望に応じた食事提供も行っている。また、パンの日、お弁当の日、行事食を含めた特別メニューの日を設けており、食の楽しみを支援している。その他、ウッドデッキを活用して、戸外でコーヒー等を提供する取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の立てた高齢者向け献立を個々の摂取量に合わせて提供している。水分は、チェック表を用いて1日1,000ml以上摂れるように努めて工夫して提供している。		

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制を整え、月1回訪問歯科医による口腔内の状態確認が実施されるほか、口腔に関するトラブル等相談を行い、助言をもらい支援に活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が出来るように排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、声かけ及び誘導をしている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握しており、声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。水分や食事量チェックの活用・献立の工夫・体操の実施等、適切な排泄習慣の確保に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便水分チェック表を活用して、なるべくたくさん水分を摂ってもらえるよう嗜好にあわせた飲み物を提供するほか、排便のサインを見逃さずトイレ誘導を行っている。内服含めた排便コントロールは医師へ相談し処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を沸かし、3日おきに入浴出来るよう1日3名ずつとしている。 本人の状態に合わせてゆっくりと入浴出来るよう支援するほか、指示薬塗布経過確認や皮膚乾燥予防に努めている。	入居者の希望や体調に配慮しながら、定期的な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。その他、柚子湯・菖蒲湯の実施や数種類の入浴剤活用により、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアの消灯は20時だが、概ね自由に就寝出来るよう支援している。また、夜間良眠出来るように、定期的に寝具を洗濯しているほか、室温調整及び湯たんぽなど個々の状態に合わせて使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や外用薬の変更については、往診結果を口頭及び日誌と往診結果一覧表を作成し共有しているほか、処方薬説明書をいつでも確認出来るようケース記録ファイルに綴っている。 また、薬の変更が生じた場合は、申し送りを行い経過を確認。その都度往診医へ報告をしている。		

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生きがいとしていた事、また長年の習慣を日々の生活に取り入れ、役割を実感出来るよう支援をしている。 また、音楽をかけるほか、ゲームを行い楽しめる時間も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の安全を第一に考え門扉や施設内の施錠をしているが、入居者様の気分転換が必要な場面では、ウッドデッキで過ごせる時間を作って支援をしている。ほか、天気の良い日は日光浴などが出来る時間を設けている。	日頃から近隣の散歩や敷地内での外気浴を行っており、戸外での楽しみを支援している。また、ベランダやウッドデッキを活用して、季節を感じながらお弁当を食べたり、コーヒーなどを飲む取り組みも行っている。現在コロナ禍の為、外出会や交流活動等は見合わせているが、新年を祝う会、節分、敬老会、クリスマス会等の行事の実施や、様々なレクリエーション活動により、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の所持や現金の預かりはしていない。ただ、入居時に現金所持の希望があれば、金額を確認のうえ所持してもらう事もある。 必要な物品は、その都度家族に相談のもと立替金にて購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望した時に電話を使用することは難しいが、希望や状況に応じては、電話で話せる機会を設けている。 手紙については、職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースに大きな窓があるフロアでひなたぼっこ含めてフロアで過ごす事が出来る。 壁には、季節の作品ほかレクの写真を掲示している。	施設内はバリアフリー環境及び十分な介助スペースが確保されており、安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ等が設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、季節感を感じる飾り付けを施し、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。	

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況を確認し、安全に配慮しながら本人の意向を尊重して自由にくつろげるほか、気の合った人と過ごせるようソファの配置に工夫をして支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを家族に確認し持参頂くほか、生活習慣に合わせて安全に暮らせるように配置をしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう工夫する等、入居者一人ひとりの個性に応じた居室となっている。また、鍵・収納が設置されており、プライバシーの確保がなされていると共に、エアコンが設置されており、快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	女主に移動できるよう手すりを整備されていて、安心して介助が受けられるようにこの場所にも広いスペースを確保している。 台所では入居者様と一緒に作業が出来るように工夫しているほか、トイレや脱衣場は分かりやすいプレートを使用し目印をしている		